

主な内容

- ・震災メモリアルコンサート(報告)
- ・都市交流をめぐるシンポジウム(報告)
- ・神戸山手女子中高等学校園祭(報告)

神戸山手通信

神戸山手学園広報委員会 <http://www.kobe-yamate.ac.jp>
 〒 650-0006 神戸市中央区諏訪山町 3 - 1
 tel 078(341)6060 e-mail: koho@kobe-yamate.ac.jp

2006年新学科開設!
 都市交流学科(大学)
 キャリア・コミュニケーション学科(短大)



震災メモリアルコンサート『あの日を忘れない』

十年前と同じ会場で

十月十七日(月)、神戸山手大学・短期大学体育館で、小澤征爾氏による震災メモリアルコンサート「あの日を忘れない」が開催された。

十年前の一九九五年三月二二日、小澤氏は阪神大震災の被災者を励ますため神戸に駆けつけ、被災市民激励コンサートを開催。その演奏会場となったのが今回と同じ神戸市中央区諏訪山町の神戸山手大学(当時短大)体育館だった。

今回のコンサートは、神戸市の「震災十年 神戸からの発信事業」の一環として企画されたもの。当時と同じ会場で、当時と同じロッシェーニの歌劇「セビリヤの理髪師」が、小澤氏の指揮により演奏された。

今回演奏したのは「小澤征爾音楽塾」の塾生たち。追悼と激励の音色に、無料で招待された市民約一二〇〇人が耳を傾けた。



冒頭、思いを語る小澤氏

フォーレのレクイエムによる祈り

コンサートはフォーレのレクイエムによる祈りから始まった。小澤氏の柔らかい繊細な指揮により三宅理恵さんが美しいソプラノで歌い終わると、そのまま数十秒間黙祷が捧げられた。

幕あいには小澤氏の友人である建築家の安藤忠雄氏が「神戸の奇跡的な復興は世界に類のない例だろう。今日の音楽を胸にまた十年、美しい街に復興していきたい。」と挨拶した。



演奏を終え、挨拶する小澤氏ら

鳴りやまぬ拍手

小澤氏の指揮による約一時間の演奏が、第二幕「フィナーレ」の最後「愛と誠実よ、永遠なれ」で終えられると、会場には盛大な拍手が沸き起こり、神戸山手女子中高・短大の卒業生、在校生たちから、小澤氏と「音楽塾」塾生等に感謝の花束が贈られた。いつまでも鳴りやまぬ拍手に、一旦退場した小澤氏らが再登場して挨拶する一幕も見られた。

リハーサルを見学して

当日、コンサート前のリハーサルを見学した神戸山手女子高校音楽科と神戸山手短大表現芸術学科の学生たちは、小澤氏らの物事に取り組む姿勢を見て、授業を受ける姿勢が別人のように変わった。

今回、神戸山手女子高等学校音楽科卒業生の三木香奈さんは、小澤氏の「音楽塾」のメンバーとしてピオラを演奏した。

(以下の文章と写真は、朝日新聞二〇〇五年十月十五日夕刊十面の記事より一部抜粋)

小澤氏が若手育成のためにつくった「音楽塾」オーケストラ。その一員でピオラ奏者の三木香奈さん(22)は、震災当時、系列の神戸山手高校音楽科の三年生だった。今回は師とともに臨む里帰りコンサートとなる。

三木さんは姫路市の自宅で震災を体験した。高校の同級生に電話をかけた続けたが、2、3日は誰ともつながらなかった。高3の三学期は事実上なくなり、卒業式が唯一の登校日だった。小澤氏のコンサートは、震災から2カ月たった95年3月に開かれた。学校側は大学受験に配慮し、高3にはコンサート開催を告げなかったため、三木さんは聴くことができなかった。

卒業後、大阪市の大学に進学し、3年前に小澤征爾音楽塾に入った。



三木香奈さん

朝日新聞 2005.10.15 夕刊 10面より

神戸山手女子高等学校音楽科 創設40周年記念演奏会

2005年12月14日(水) P.M.6:30

神戸文化ホール・大ホール

入場料 ¥1,500円(自由席)

グリーグ ピアノ協奏曲 イ短調 op.16 ピアノ 森玉美穂

グノー 聖セシリアのための荘厳ミサ ソプラノ 飯山友子 / テノール 皆木信治 / バス 藤村匡人

合唱 神戸山手女子高等学校音楽科合唱団 / 管弦楽 神戸山手女子高等学校音楽科管弦楽団 / 指揮 矢野正文

お問い合わせ: 神戸山手女子高等学校 078-341-2133(代表) / 078-341-2540(音楽科直通)

主催 神戸山手学園

後援/兵庫県・神戸市・神戸市教育委員会・神戸市民文化振興財団・神戸新聞社・神戸山手学園友松会・神戸山手学園中高育友会・ムジカリネン山手

